

表 令和 8 年 7 月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	解説情報 第 62～70 号	3 日、6 日、10 日、 13 日、17 日、20 日、 24 日、27 日、31 日 16 時 00 分	南岳山頂火口で噴火活動継続。29 日に爆発。 21 日 14 時 14 分の噴火で、噴煙は火口縁上 3000m まで上がる。夜間に高感度の監視カメ ラで火映を観測。昭和火口では噴火及び火 映はない。 火山性地震は少ない状態で経過。火山性微 動が時々発生。 7 日、13 日の現地調査で、火山ガス（二酸化 硫黄）の放出量はそれぞれ 3000[t/日]、 2200[t/日]と非常に多いから多い状態。 島内の傾斜計及び伸縮計で、6 月 29 日 21 時 頃から 7 月 1 日頃にかけて山体膨張を示す 地殻変動を観測したが、その後停滞。 GNSS 観測で、始良カルデラ(鹿児島湾奥部) を挟む基線で地下深部の膨張を示す長期の 緩やかな伸びがみられる。 始良カルデラ深部にマグマが蓄積した状 態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴 火活動が継続すると考えられ、今後の火山 情報に注意。
		降灰予報(速報)	21 日 14 時 24 分 29 日 23 時 24 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される、降 灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	21 日 14 時 35 分 25 日 19 時 27 分 29 日 23 時 36 分	噴火発生から 6 時間先まで（1 時間ごと）に 予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
雌阿寒岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 34～38 号	3 日、10 日、17 日、 24 日、31 日 16 時 00 分	ボンマチネシリ 96-1 火口の噴煙活動は活発 な状態が継続。17 日の現地調査で、火山ガ ス（二酸化硫黄）の放出量は、100[t/日]で 前回（7 月 2 日、200[t/日]）と同程度。 2025 年 9 月からのボンマチネシリ火口方向 が緩やかに上がる傾斜変動は、5 月 9 日頃 から火口方向が下がる変化に転じたが、火 口付近浅部は引き続き膨張した状態と考え られる。ボンマチネシリ火口付近の火山性 地震は、概ね少なく経過。 火山活動の活発な状態が継続しており、今 後も噴火の可能性がある。
十勝岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 9～14 号	3 日、10 日、17 日、 22 日 16 時 00 分 24 日 12 時 00 分 24 日、31 日 16 時 00 分	62-2 火口及び振子沢噴気孔群付近では、噴 煙・噴気高さの増大、発光現象の多発、振子 沢噴気孔群の高温化等、熱活動の高まった 状態が継続。 3 月以降、山体付近やや深部の膨張を示す 地殻変動が継続。4 月以降火山ガス（二酸化 硫黄）放出量の増加、62-2 火口付近及びそ の周辺の地震活動のやや活発化が認められ る。 24 日の現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄） の放出量は、2000[t/日]前後。北大の 16 日 の現地調査でも、2000[t/日]前後の火山ガ ス（二酸化硫黄）の放出を確認。 22 日 11 時 07 分頃、62-2 火口で噴火発生。 火山性微動を約 45 秒間観測。避難小屋観測 点で最大 0.76Pa の空振を観測。噴煙は、黒 色で火口縁上約 200m、直上に流れる。大き な噴石の飛散は観測されていない。 火山活動が高まっており、62-2 火口から概 ね 1.5km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能 性がある。

令和 8 年 7 月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
岩手山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 27～32 号	1 日 12 時 00 分 3 日、10 日、17 日、 24 日、31 日 16 時 00 分	観測データの精査の結果、5 月下旬以降山体膨張を示すと考えられる地殻変動が認められていたが、7 月中旬頃から停滞。地殻変動に伴い山頂付近浅部を震源とする火山性地震が増加していたが、7 月中旬以降は少ない状態で推移。 9 日 20 時頃から 10 日にかけて山頂の西約 1 km の浅部を震源とする火山性地震が一時的に増加し、11 日以降も引き続き発生。黒倉山付近の地震活動も低下しているものの継続しており、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね 2 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性がある。今後の火山情報に留意。
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 5～9 号	3 日、10 日、17 日、 24 日、31 日 16 時 00 分	火山性微動の振幅は概ね小さな状態で経過したが、9 日 15 時 40 分頃に長周期の震動を伴う火山性微動を観測。25 日 14 時頃にも一時的に増大。阿蘇火山博物館提供の火口カメラで、夜間に南側火口壁で赤熱を確認。6 月 30 日、7 月 23 日の現地調査で、中岳第一火口底に概ね灰白色の湯だまりを確認。湯だまり量は約 7 割で同程度。23 日に高さ数 m 程度の土砂噴出を確認。10 日、21 日、28 日の現地調査で火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1300[t/日]、1600[t/日]、1300[t/日]とやや多いから少ない状態。GNSS 連続観測では、2026 年 5 月頃から、草千里を挟む基線及び広域の基線で、草千里付近の深部にあると考えられるマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められる。 火山活動の高まりや変化が認められており、中岳第一火口から概ね 1 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性がある。
霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 27～31 号	3 日、10 日、17 日、 24 日、31 日 16 時 00 分	2025 年 9 月 8 日以降噴火はない。 2 日の現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 200[t/日]とやや多い状態。火口直下の火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動は 6 月 14 日以降なし。 GNSS 観測で霧島山を挟む一部の基線で、深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められたが、2025 年 12 月中旬頃から停滞。新燃岳付近の膨張を示すと考えられる基線の伸びは 2025 年 7 月以降認められない。 火山活動が高まった状態が継続。引き続き噴火の可能性がある。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 28～32 号	3 日、10 日、17 日、 24 日、31 日 16 時 00 分	硫黄岳火口では、白色の噴煙と夜間に高感度カメラで火映を観測。火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動なし。長期的に熱活動や噴煙活動が高まった状態が継続。火口周辺に影響する噴火の可能性がある。
口永良部島 (次頁へ続く)	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 活火山であることに留意)	噴火予報	2025 年 9 月 19 日（期間外）が継続	
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	9 日 02 時 25 分	9 日 01 時頃から火山性地震が増加。02 時 15 分までの 1 時間に 11 回発生。 火山活動が高まっており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性がある。
		解説情報 第 6～8 号	9 日 03 時 00 分 9 日、10 日、 16 時 00 分	主に古岳浅部の火山性地震が 9 日 01 時から 04 時にかけて一時的に増加。02 時 15 分までの 1 時間に 11 回発生。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、100[t/日]を下回り、少ない状態で経過。 監視カメラの観測、地殻変動観測では、特段の変化はないが、火山性地震が増加し、火山活動が高まっており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性がある。

令和8年7月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
(前頁の続き)	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 活火山であることに留意)	噴火予報	17 日 15 時 30 分	7 月 9 日 01 時頃から火山性地震が増加と判断し、噴火警戒レベルを 2 に引き上げたが、波形の精査、現地調査結果等から、火山活動の高まりを示す可能性は低いと判断。噴火警戒レベルを 1 に引き下げる。
口永良部島	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 活火山であることに留意)	解説情報 第 9～10 号	17 日 15 時 40 分 21 日 16 時 00 分	7 月 9 日 01 時頃から火山性地震が増加と判断し、噴火警戒レベルを 2 に引き上げたが、波形の精査、現地調査結果等から火山活動の高まりを示す可能性は低いと判断。噴火警戒レベル引き上げ前後に火山性地震の発生状況に変化なし。その他の観測データにも火山活動の活発化を示す変化なし。 17 日 15 時 30 分に噴火警戒レベルを 1 に引き下げた。 7 月 14 日頃から古岳付近の浅部を震源とする火山性地震がやや増加。18 日に 18 回、21 日に 15 時まで 15 回(速報値)と多い状態。火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、100[t/日]を下回り、少ない状態で経過。 監視カメラの観測、地殻変動観測で、特段の変化はないが、古岳付近を中心に火山性地震がやや増加しており、今後の情報に留意。
		解説情報(臨時) 第 11～14 号	22 日、23 日、24 日、 27 日 16 時 00 分	7 月 14 日頃から古岳付近の浅部を震源とする火山性地震が増加、前 10 日間の地震回数は、22 日まで 81 回、23 日まで 83 回。24 日まで 87 回、27 日まで 98 回発生(それぞれ 15 時まで)。23 日から 24 日の現地調査で新岳及び古岳の噴煙の状況に変化なし。 東大院理、京大防災研、屋久島町、気象庁の 26 日の観測で、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、30[t/日]と少ない状態。 遠望観測及び地殻変動観測で、特段の変化なし。 火山活動がさらに高まる可能性があるので、今後の火山情報に注意。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	27 日 19 時 00 分	14 日頃から主に古岳付近の浅部を震源とする火山性地震が増加。27 日までの 10 日間で 100 回発生。 山体浅部で地震活動が活発化。火山活動が高まっており、新岳火口及び古岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。
		解説情報 第 15～17 号	27 日 19 時 15 分 28 日、31 日 16 時 00 分	14 日頃から火山性地震が増加、27 日までの 10 日間で 100 回発生。火山性地震は主に古岳付近浅部で発生。その後、概ね多い状態で経過。 東大院理、京大防災研、屋久島町、気象庁の 26 日及び 30 日の観測で、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、30[t/日]、20[t/日]と少ない状態。28 日から 30 日の気象庁機動調査班(JMA-MOT)による現地調査で、新岳及び古岳の噴煙の状況や周辺の地熱域に特段の変化なし。 遠望カメラの観測で、古岳火口で噴煙なし、新岳火口で白色噴煙火口縁上 100m。GNSS 観測で、2023 年 11 月以降、山体膨張を示す地殻変動はなし。 現地調査、遠望観測、地殻変動観測では、特段の変化はないが、火山性地震が増加し、火山活動が高まっており、新岳火口及び古岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。

令和 8 年 7 月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 27～31 号	3 日、10 日、17 日、 24 日、31 日 16 時 00 分	御岳火口では、6 月 26 日、7 月 24、25 日に 噴火発生。爆発なし。夜間に高感度カメラで 火映を観測。火山性地震は少ない状態で経 過したが、30 日 06 時 19 分の島の西側で発 生した地震で島内で震度 1 を観測。火山性 微動は時々発生。GNSS 連続観測で、2024 年 10 月以降、島の西側のマグマの蓄積量の増 加を示唆する地殻変動が認められていた が、2025 年 11 月頃から停滞。 長期にわたり噴火活動が継続し、御岳火口 周辺では、大きな噴石飛散の可能性ある。
鶴見岳・ 伽藍岳	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 活火山であることに留意)	解説情報 第 1～2 号	17 日 12 時 45 分 21 日 16 時 00 分	17 日 11 時から鶴見岳の山頂の西 2 km 付近 の深さ約 5 km を震源とする地震が増加。11 時から 12 時 30 分までに 79 回（速報値）発 生。一部は付近で体を感じる程度。浅い地震 や火山性微動はなし。 表面現象や地殻変動に変化なし。 構造的な地震が多く発生する領域であり、 今回の地震も同様と考えられるが、火山活 動が変化する可能性も考えられる。 伽藍岳の火山活動には変化なし。 17 日 14 時以降減少し、18 日 03 時以降はな し。周辺の地震活動は低下しており、火山活 動に活発化の兆候なし。

注 1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注 2) 雌阿寒岳、岩手山、阿蘇山、霧島山(新燃岳)、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している
間、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報（定時）を発表している。口永良部島は 9 日 5 時に開始し、17 日 14 時で終了、その後、
27 日 20 時に再度開始した。